

多田謠子  
反権力人権基金  
News

No.19 2025/06/10

発行・多田謠子反権力人権基金運営委員会  
<https://tadayoko.net>

2024年12月14日

第36回受賞発表会を開催しました



多田謠子反権力人権基金は、2024年12月14日、東京・お茶の水の連合会館で第36回反権力人権賞受賞発表会を開催しました。発表会には60名が参加者として、受賞した方がたからの講演をうけました。

- ・飯塚淳子さん、佐藤由美さんと路子さん  
(優生保護法強制不妊手術を告発し国に謝罪を求める)
- ・阿部一子さん  
(原発事故に抗した梨づくり)
- ・崔江以子（ちえ・かんいじや）さん  
(川崎市におけるヘイトスピーチとの闘い)

基金からは各受賞者に多田謠子の著作「わたしの敵が見えてきた」と賞金30万円が贈られ、発表会

終了後には恒例の記念パーティーが開催されて、参加した皆さんと受賞者との交流を深めました。

ロシアによるウクライナ侵略から3年半、パレスチナではガザ住民の虐殺が拡大しています。トランプ政権の成立で、今や世界No.1とNo.2.の核大国がともに「ファシスト」を頭目とし、帝国による剥き出しの暴力が世界を蔽っています。日本国内でも、人びとの不満をフェイクで扇動し、「少数者」「弱者」への攻撃に駆り立てる動きが拡大しています。

人びとが権力に支配されず、自由に平和に穏やかに暮らす世界はますます遠くなっていますが、多田謠子反権力人権基金は、人権と自由、平和に生きる権利のために、これからも行動していきたいと思います。12月20日の第37回受賞発表会への参加を心から呼びかけます。

多田基金は継続のためのカンパを呼びかけています。

# 第36回受賞発表会

2024年12月14日 連合会館（東京・お茶の水）

## 飯塚淳子さん、佐藤由美さん路子さん (優生保護法強制不妊手術を告発し国に謝罪を求める)

「宮城県の被害者、飯塚淳子です。16歳の時に何も説明されないまま優生手術を受けさせられました。両親が話しているのを聞いて、子供を産めなくする手術だと知りましたが、優生保護法のことも優生手術のこと全く知りませんでした。優生手術は私から幸せな結婚や子供という夢を奪いました」

飯塚淳子さんは、1998年、もっとも早く抗議の声を上げて以来、長い間、歯をくいしばって国、県と闘い続けてきました。

手術の当時、宮城県では優生思想の普及と強制不妊手術の徹底を訴える「愛の十万人運動」が行われていました。飯塚さんは民生委員に一方的に「知的障害」とされて障害者施設に送られ、退所後は職親によって虐待を受け、民生委員と職親により優生手術を強制されました。

「最高裁の判決で、優生保護法は最初から明らかに違憲とされました。国はなぜもっと早く責任を認めなかつたのですか。和解したからといって私の人生が戻ってくるわけではありません。本当は私の体を元に戻してほしい」

そう言って飯塚さんはお話を終えました。

佐藤路子さんは結婚してすぐ、夫の妹・由美さんが子供ができるよう手術したと聞かされました。目のくるっとした可愛い妹のお腹には、へその下から恥骨くらいまで縦14センチの傷があり紫色に腫れあがっていました。飯塚さんたちの活動が報道され、優生手術ではないかと思った路子さんが宮城県に情報開示請求した結果、1972年、15歳のとき、妹さんは事実とは異なる遺伝性精神薄弱と診断されて、優生手術をされたことがわかりました。

由美さんは読み書きできませんが、洗濯や掃除や食器洗いなど家事一般はできて、路子さんの3人の子供の世話もよくしてくれました。男性に対する憧れの感情もあり、近所の男性との縁談が持ちかけられたこともありましたが、優生手術を受けたことを話すとダメになりました。

2017年以降、厚労省の担当者は、被害者との面談の席で、「当時は合法、適法、厳正な手続きにも

とづいて実施した。調査する必要はない」という答弁を繰り返しました。やむなく、路子さんと由美さんは2018年1月、国を相手に裁判を始めますが不安でいっぱいでした。国は求めて争う姿勢を示しましたが、裁判所から再三、旧優生保護法の合憲性について認否を求められても、認否を拒み続けました。

旧優生保護法は立法の時点で違憲の人権を侵害する法律だったという最高裁判決が確定した後、岸田総理は被害者に謝罪し、その後ろで官僚たちも繰り返し頭を下げました。頭を下げられても嬉しくはなく、悔しいだけでした。

「飯塚さんや『優生手術に対する謝罪を求める会』に出会えたから裁判に勝ち、法律も変えられて、今日皆さんにお話しできたと思います。ありがとうございます」そう佐藤さんはお話を終えました。

お二人のお話に大きな拍手がおくられました。

## 阿部一子さん

(原発事故に抗した梨づくり)



「福島市で梨の専業農家をしている阿部一子です。私は生活の糧を得るために、原発事故の放射能が降り注いだ福島で農業を続けるには何ができるか考えて、ただ闇雲に突っ走ってきました。それは福島で農業を続けている誰もが同じだと思います」

そう自己紹介した阿部一子さんは、35年前、農園の八代目を継いだ夫とともに故郷に帰って名産の梨「幸水」を育てながら、フクシマ原発銀座の原子力発電所に反対する運動に参加していましたが、2011年3月11日、原発事故の放射能が梨畑と自宅に降りました。

J A福島は「梨も米も作っていい数字」、政府も「ただちに健康に影響の出る値ではない」と繰り返しましたが、本当に信じていいか、懐疑的になった阿部さんは梨の実の放射線検査を続けます。

「市民放射能測定所で測定した幸水は1kg中、セシウム134+137で28ベクレル。安心してくださいとは言い切れませんが、これでなければ注文してくださいと農園だよりに書きました。放射能の降り注いだ福島の梨に、注文は来ないだろうと思っていま

した。福島を応援しようと思っている人がたくさんいて、友人から友人へと農園だよりが手渡されて多くの注文が来たのはびっくりしました」

「農園だよりはずっと書き続けています。2011年からは、梨に含まれる放射能の表示が必要だと思い、数字を入れています」

高価なGMサーベイメーター（土壌も空間も測れる線量計）を購入し、畠と自宅周辺のあらゆるところを計測して、できる限りの除染を続けました。

JAの除染説明会に参加した阿部さんは、果物から放射線セシウムが検出されないように梨の木の粗皮を削ることに挑戦します。夫と二人で一本削るのに2時間、400本の木の粗皮を削るのは気の遠くなる作業でしたが、東京と神奈川から友人たちが駆けつけてくれました。

福島市で初めて取り組んだ果樹園の表土除染モデル事業では、梨畠の表土を5センチ削り取り、1トンの土が入るフレコンバッグ(1万円)630袋でした。300坪の土地に1.5メートルの穴を掘り630袋の汚染土を入れて、50センチの山砂をかけて行きます。2ヶ月半かかって費用は3,400万円でした。

各家の周囲に積まれている汚染土は、遮蔽されていると言われても、大丈夫なのかという不安感がいつももある、低線量被爆の先に何があるのか？汚染水の海洋放出が始まりましたが安全基準を超えたたらどうするのか？東電の人も廃炉まで100年かかるかもしれないと言っています。

「不安なことはたくさんありますが、福島に来て34年。私はここが好きで、ここで農業をして生きていきたいんだとはっきりと自覚させてもらったのは、なんと皮肉にも原発事故でした」

ここで生きる、ここに生きるというお話を大きな拍手がわきました。

### 崔江以子さん

(川崎市におけるヘイトスピーチとの闘い)



崔江以子さんが暮らす川崎市  
桜本は、朝鮮半島から渡って來た人たちと二世、三世が多く暮らす街です。小学校の運動会で朝鮮の伝統芸能が演じられ、6年生では一世ハルモニからキムチ漬けを教わります。

「私が私らしく、あなたがあなたらしく……共に生きる実践を丁寧に丁寧に重ねてきたのが私たちの街、川崎桜本です」

民俗芸能を踊ることもたちやキムチをつけることもたちの写真を紹介しながら、崔さんは誇りと自信に満ちた口調で話しました。

その街を日の丸や旭日旗を掲げ、朝鮮人を殺せ、ゴキブリ朝鮮人を海に沈めろと主張するヘイトデモが襲いました。桜本ではデイサービスに「私たちの街は差別は許さない！」というメッセージが掲げられ、人びとが飛び出して抗議の声を上げました。しかし、道路に寝転んでデモを止めようとした人々は排除されても、ヘイトデモの人たちは規制されませんでした。道路交通法はあるけれど差別を禁止する法律がないからでした。

「大人はいつも差別はダメと言っているのに、どうして大人が差別するんだ」

「ルールがないならルールを作れ」

こどもたちに励まして、崔さんたちは国に人権侵犯の被害申告を提出しました。被害の訴えは「日本には法律を作つてまで禁止する深刻な差別はない」としていた与党の人たちの心も動かしました。自民党の人たちも含む議員団が視察に来て、地域の被害、こどもたちの被害を聞いた結果が2016年のヘイトスピーチ解消法の成立につながりました。

ヘイトスピーチ解消法は罰則のない理念法で不十分でしたが、崔さんたちは市議会と市長に要請を繰り返し、川崎市はヘイトスピーチをする団体に公園を貸さないと決断、司法もヘイトデモ禁止の仮処分を出しました。崔さんたちは、差別をなくそうという一点であらゆる人と手をつなぎ、ついに差別を犯罪として罰則のある「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」を成立させました。条例の成立を知ったハルモニたちは、「やっと川崎市民になれたような気持ちです」と喜びを綴りました。

今も川崎駅前ではヘイトの街宣が続いていますが、市の職員がヘイトを監視、記録するようになり、差別がたれ流されることになりました。しかし、今も差別する人たちの行動は止まりません。街宣する、選挙活動の中でヘイトを垂れ流す。インターネットで崔さんの名を検索すると900万件のヘイト投稿がヒットします。未然にヘイトを防ぐ施策が圧倒的に欠けています。

「皆さんのが差別をしないだけでは差別はなくならない。差別がある社会の一構成員として、主権者として主体として、差別のない社会のために皆さんと一緒に歩みを進められたら嬉しいです」

崔江以子さんが話を終えると、大きな拍手が湧きました。

多田基金の詳しい情報はホームページでご覧いただけます。 <https://tadayoko.net>

## 第37回多田謠子反権力人権賞 候補者推薦のお願い

2025年6月

多田謠子反権力人権基金運営委員会

本年度も、下記要領で多田謠子反権力人権賞の候補者推薦を受け付けます。自薦、他薦は問いません。多数のご推薦をお待ちしています。(これまでの受賞者は当基金のホームページで閲覧できます。)

※多くの皆さまのご支援により、副賞賞金を  
30万円に増額することができました。※※

### ・賞の内容

多田謠子の著作「私の敵が見えてきた」および  
金30万円の贈呈

### ・選考基準

国家権力をはじめとしたあらゆる権力に対して  
闘い、自由と人権を擁護するために活動してい  
る個人または団体

### ・推薦方法

自薦、他薦とも可。候補者名と活動分野の簡単  
な紹介を付して、文書で下記住所に郵送、F A  
Xまたはe-mailでお送りください。

### ・推薦締切

2025年8月31日

注!! 締め切りが1ヶ月早くなりました。

### ・推薦受付先

〒105-0004

東京都港区新橋2-8-16

石田ビル5F 救援連絡センター気付

多田謠子反権力人権基金運営委員会

TEL 03-3591-1301

FAX 03-3591-3583

e-mail web@tadayoko.net

お問い合わせにはできるだけe-mailをご利用く  
ださい。なお、受賞者には受賞発表会での講演をお  
願いいたします。

## 12月20日(土)受賞発表会を開催します。

- 第37回多田謠子反権力人権賞受賞発表会
- 日時 12月20日(土) 午後2時~5時
- 場所 連合会館201号室  
東京・御茶ノ水駅から徒歩5分
- 発表会後、同所で記念パーティーを行います。
- 発表会、パーティーとも参加費無料です。



### 基金継続のための寄付のお願い

#### 郵便振替用紙を使った振込み

寄付と明記し、氏名、住所をお書き下さい

口座番号 00110-2-356484

口座名称 多田謠子反権力人権基金

#### 金融機関の口座からの振込み

◎ 記号・番号を使った振込み

・記号 00110 ・番号 356484

◎ 店名(店番)を使った振込み

・銀行名 ゆうちょ銀行

・店名 ○一九店(ゼロイチキュウ)

・店番 019

・預金種目 当座

・口座番号 0356484

・タダヨウコハンケンリョクジンケンキキン

(金融機関からの振込ではお名前、ご住所がわかりません。  
メールでお知らせいただければ領取証をお送りします)

多田謠子反権力人権基金News

No. 19 2025年6月10日発行

編集・発行 多田謠子反権力人権基金運営委員会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救援連絡センター気付

TEL 03-3591-1301

FAX 03-3591-3583

e-mail web@tadayoko.net